京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年 紀元二千五百七十年

本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ケ月前金卅五錢▲三ケ月前金壹圓▲六ケ月前金…▲郵稅一ケ月十三錢

月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)

廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行金三十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人 高木久馬太

印刷人 松久伸一郎

京城西署西小門通(電話六六三)

發行所 京城新報社

文藝 伊曾保物語(二)

偸食しとばつて、[illegible]日は[illegible]て言ふ樣は『さても無器量なエソポかな、御前樣この無い物をらうぞ』と私語き合はつた。偖主人風呂から上り『件の柿を疾と上りに持つて來い』と呼ばるれば右の二人の者共が犯さぬ顔で申すは『それをばエソポこそ盜んで食べてござれ』其時の主人は頭に立てし(四一〇)こうてエソポを召寄せ言はるゝ『いかに畜生な奴でないたづら者が、我が賞翫せうと思切つて居た其熟柿を何と思うて取つて食うたぞ』と氣色て叱らるれば其時エソポこれを聞き、又その叱らるゝに膽をつぶいたれど、いて分別はしたれども元來吃りおやか、言葉ふてとも叶はいで頭打疊めてどもあるくに由て主人『さればこそ紛ひもない彼が取つて喰ふたものぢや、それ打擲せい』と言付けらるゝ程ころあれば彼等をむづ取つて三人程立ちかゝり既ち打擲せうとするに臨んで、主人の足元にひれ伏し吃り吃り謹んで申すは『暫く御折檻あるとも今暫く待たせられい頼み奉る、わが腹中をひるがへいて御目に掛けう』と言ひ樣に微溫い湯を一杯大茶碗に持つて來て主人の前で飲み、指を咽喉にさし入れて吐逆して、實の實否を見するに朝ばらのことなれば吐逆すれども痰より外は別に吐出さなんだ所でエソポ主人に向うて言ふ樣は『それがしは既に此分でござれば御分別あれかし、さあらば又それがしにこそ讒言を申し掛けた人々にも私が如くに仕れと仰付けられいかし、然らば(四一二)食した人は必ず露顯れませうずる』と申せば其時主人エソポが才幹なことを驚き彼の二人にエソポが所望の如く言付けらるれば兩人の者供思ふ樣は『溫湯をば飲むとも、咽喉に指をさへ入れずは苦しかるまじい』と思うて一杯づゝ引受け引受け飲むにうそ甘い物を喰うた上なれば何がはよからう、御前に憚るほど吐逆したれば何の據もなう化が顯はれた。其時主人エソポをば赦し、彼の二人を綱になし忽ち打擲させられた、是を以て『血を含んで人に吐けば先づ其口穢る』といふことは今こそ思ひ知らせた。

或時エソポが主人旅をせらるゝに及うで下人どもに荷物を負せらるゝ所にエソポ奉行に言ふは『某はまだ左樣の事に慣れまらせぬ程に小輕い荷を下されい』といふた所で奉行のいふは『いや其に及ばぬ其方は只來ても大事もないぞ』といふた、然れどもエソポは『それは然ることでござれども人並に何ぞ持ちまらせいでは』というたが其處に兵糧を入れた大きな箱が有つたをエソポ『之を持たう』といへば『いや此はあまり重い荷ぞ』と言へども切に乞受けて持つた。それを何故にと(四一三)いふに、エソポが分別には『此は當時重くともやがて輕う成る物ぢや』と思うて其分にした、案の如く一夜には輕うなり、一朝には又減り然うくする程に、後には何をも持たいで手打振つて、躍り跳ねつして奮うで道を歩いた。それに由て主人を始めて朋輩もエソポが分別の所を皆譽めたと申す。

其より後に彼のエソポにいま二人を介添へてサモといふ處へ行いた、其處にシャントといふ學匠があつたが彼の商人に行き向うて先づ二人の能藝を尋ねらるゝの商人共に『何でもあれ存ぜぬことは無い』と答へた、その時エソポ彼の二人に言ひ樣を大きに嘲けつた所でシャント、エソポに問はるゝは『其方は何とした者ぞ』

佛國の海軍擴張
大艦策の斷行

列強海軍が大艦主義を採用する間に獨り多數小艦主義を敢行したる佛國海軍も近時列國がド級大艦策に進むの狀勢に鑑み且つ歐洲の隣邦が益々海軍の擴張を實行する結果同國海軍力のいよいよ低落するの悲況に在るより佛國にては或程度に海軍力を増進するの極めて緊要なるを感じ大統領、海軍卿其他海軍武官を以て組織する海軍高等會議にては昨年其擴張策を講じたる結果小艦策を棄てゝ大艦策に移ることゝし千九百二十五年までに戰闘艦四十五隻、通報艦二十隻、驅逐艦潛航艇若干隻を建造するの議を決し而して裝甲巡洋艦は全然之を建造せざるの主義を確立したるも以上の擴張基本案を實行するには三十億法の巨額を要すべく此の如き大經費は財政の許さゞる事情あれば之が實行期を二回以上に分割して先づ本年より千九百十九年までに戰闘艦十四隻通報艦六隻、潛航艇、驅逐艦若干隻を建造する事とし過般之を議會に提出したるが今日の形勢に於ては七分通り可決の見込ありと云ふ若し該法律案にして通過せば本年より毎年戰闘艦二隻づゝ千九百十六年までに十六隻を起工し斯くて千九百十九年までに十四隻を竣工せしむる計畫にしていよいよ實行せられたる結果を豫想すれば即ち現在のド級戰艦十四隻及び千九百十九年までに竣工せらるべき十四隻を合算して茲に二十八隻の主力艦隊を實現すべき筈なり(過日の外電に佛國が戰艦二十八隻を建造する計畫とあるは前記現在及び將來のド級戰艦の計數を合算したるものにして其實本年より將來の計畫期に亙りて建造せらるべきものは十四隻なり)而して佛國海軍が建造せんとする戰闘艦は現時最有力型を代表する排水量二萬三千噸のド級艦にして十二吋砲は十二門を搭載する筈なれば現時艤裝中なる同國ド級戰艦の同種砲數に比すれば更に二門を増す次第にて通報艦の如きは世界の海軍に異數なる排水量一萬噸大のものをなし且つ速力は二十八海里を出すべき計畫なりと云ふ

昨年度の關稅實收
▲約一千萬圓減收

四十二年度關稅收入豫算額は四千七百萬圓なるに對し本年二月末までの實收額は三千百六十萬圓に過ぎざるを以て之れに三月分の實收額を約三百万圓と見積り更に臺灣關稅百四十萬圓を繰り入るゝも其總額は合計三千六百萬圓を算するに過ぎざれば之を豫算額に比すれば實に千百万圓の減收となるべし而して斯の如く多額の減收を見るに至りたる原因は一般經濟界不振を極めたるに依るものなるも同年度の豫算が卅九、四十、四十一年の非常に好成績に終りたる三箇年平均に依り打算せられ過大の豫算を計上したるも依るべしと

●近松傑作全集好況

東洋のシェークスピヤ、我國粹文學の泰斗として文名隱れも無き近松翁の大作に對して未が完璧の註釋なきは文壇の久しく遺憾とせる所なり此程早稻田大學より豫約刊行を發したる同書は空前の大註釋書として文學家、教育家、美術家及び淨瑠璃愛好者を始め讀書界の注意を喚起せしこと尋常ならず豫約の申込、引きも切らざる盛況なりと云ふ

日本銘刀傳
第八十四席 邑井一講演
法城寺正弘(六)

幾三郎は店を預かつて居ましたが、おたくが鹽原へ往つてから、四五月になりますが、唯無事であるといふ便りだけありましたが、一日鶴屋の次郎兵衛が來て 次「オヤ大層繁忙しいね、結構だ、所で幾さん手がすいたら一寸奥へ來て下さい 幾「畏りました」と店のれ客の樣子を見て、奥の六疊へ來て手を突き 幾「どうも親方さん、面目次第もない事をお聽かせ申しまして…… 次「いや其樣ことはもう何うでも宜いとしやうぢやあないか、さて今日鹽原から私の所まで便があつたが、おたくさんも好い工合に全快といふ段に向つて來たのは結構さ」といふて一ト息つきましたが、前にも述べました如く、此の鶴屋次郎兵衛は俠客肌の大親分で、此人が種々おたくに附いて鹽原まで往つてくれたのです、さて次郎兵衛は再び語を繼ぎ 次「所でおたくさんも來月は臨月となるのだから、もう二箇月ばかりは歸つて來ないと、便りをして來た其處でお前と相談して置きたいと思ふことがあるのだ、といふのは他でもないがおたくが產をしてからの一條だて何うもお前もおたくさんと一所に居るのも變なものだし、さうかといつて今お前が別居したら商賣にも影響といふ又心配が起つて來るのだから、何うしたら宜からうさ、私も心配して居るのだ、お前も居て難儀だし、おたくさんも面伏のないやうにといふやうなことは出來ないかしら 幾「左樣です私も近頃夫れのみ心配して居ります、一番早いのは私の身を退きますので、是れは譯ないことですが、さういたし此の商賣に差支へるといふやうなことになりはしますまい 次「さうすると世間へ對して、隱した事を知らするやうなもので、言はゞ近所の恥を明々地へ出すやうなことになるから、さうだらう長太郎も十七歲になるのだし、妹おねも段々成長することだから、此の小供二人を相手におたくさんを大黒柱にして、此の商賣は廢めて、別に家を構へることにして、お前は女房を貰つて上總屋の暖簾をくさらせないやうにやつてくれるか、夫れともお前の方が遠くへ往つて世帶を持つて、生れた子供を引取るか、此の二つより外に仕方が



ないだらうと思ふが、お前の考へは如何だい 幾「はい私はどう仕樣といふ考へもありませんのですが、何方にしても新規の店の方は仲々骨も折れませうし、夫れに此所は買込みました店ですから何うかなりませうから、私は一軒別に家を持ちまして、辛抱いたして見ませう 次「夫れならさうするが宜い、私も乘りかゝつた船だから、世話序でに其の邊まで世話をしてやらう、佛造つて魂入ずでは仕方がないから、お前の商賣の出來るまでの順を俺が取つてやらう、だが生れた子が男であれ女であれ、乳の離れるまでといひたいが、夫れでも永過ぎるといつて、要の上から直ぐでも猶困るだらうから、まア家を探して居る間には小供も肥立つて來るといふ工合にしたいのだが、何の邊へ世帶を持ちたいのだ 次「何か當でもあるのか 幾「別に當てもありませんが、成らうことなら、私の生れた所へ近いから、淺草の馬道か田町馬道近所へ往きたいので、さうなれば玉屋の旦那も見て下さいませうし、得意も出來るだらうと思ひます 次「それは上分別だ、夫れが宜からうから、明日其の相談に鹽原まで往つて來るから……」と世話好きとはいへ、知己といふ名ばかりで是迄に力を入れてくれるとは、先づ得がたい人で、幾三郎は後姿を拜んで涙を流して居りました、鹽原に留つて居るおたくが難有涙にくれて、次郎兵衛の親切を喜んで居るうちに、產の氣がつきまして、さア產襲だ、產湯だといふうちに安產、世の中は奇妙なもので人間でも芝居でも幕明きにはさんばが入用です、さて乙女の子が生れましたが誠に玉のやうな奇麗な子で愛くるしい顏立です、夫れに幸ひに二人共肥立も宜しいので、先づ何よりの事だと、悅こんで居る所へ次郎兵衛が駕籠で乘り込んで來ました。

京城新報

滿韓の現狀及將來より韓人自由教育に及ぶ(上)

於東京經濟協會 峯岸本社長述

荻谷男爵閣下並に諸君今晩私は滿韓の現狀及び將來に付少しく述べて見たいのであります。御承知の通り社會の出來事は日々新聞に依つて報道される、而して一寸考へると新聞の報道は社會萬般の事を盡した樣に見ねる、所が事實は中々そうでない、私自身も新聞を有て居るが凡そ新聞に現はれる記事と云ふものはドチラかと云へば皮相の事か然からざれば過ぎ去つた事が多い、で社會の裏面に就て見ると何程重大なる事でも新聞に現はれずに居るものが澤山ある、否新聞記者の耳に入らない事が澤山ある、之が突然何かの動機に因つて發表されると新聞記者も世人も驚く[illegible]鳥が飛立つた樣に驚く[illegible]問題も實は新聞記者や世人が知らずに居つたと云ふだけで問題は[illegible]と云ふ譯である[illegible]滿洲鐵道中立の[illegible]我政府は此提議[illegible]年の春の中に知つ[illegible]ばこそ政府は知ら[illegible]は昨年五月ロンドンタイムスのチロル氏が態々滿洲見物に來たと疑問を起した[illegible]るとき其積りで態々[illegible]再び滿洲を見舞ひ[illegible]べき豫定を變へて[illegible]歐英の途に就いたの[illegible]其後彼是[illegible]米國政府が滿鐵中[illegible]政府の意向を探つて[illegible]に起つたのではな[illegible]た、まづこんな鹽梅[illegible]つて居たのである

政府が秘密にして居るからと云ふて新聞記者迄が[illegible]とは一寸暢氣のやうだ、此後とも米國に限らず他の列國から[illegible]が來るかも知れぬ、[illegible]提議とも云ふべきものが來て居ると云ふ事だ、であるから[illegible]して我國に不利益なものは[illegible]つて而して頭を擡げない中にたゝきつぶす樣にしたいものだ。

私は滿洲を踏査して居らぬが一部は踏査して居る、現在滿洲の我邦人は[illegible]ある、大豆が出る、石炭が出る、專賣局の煙草が澤山賣れるなど、極めて樂天的な報道が世間へ傳へられて居る、併し實際を見ると在滿五萬の邦人は安奉線工事以外には殆んど金儲けの仕事がなく生活の途に窮しつゝあるのである、川柳點に曰く女房の燒くほど亭主持てもせず、私の實見したるところでは僅かに此觀があるのである、然るに米國人は我邦人が滿洲に於て利權を獨斷し格外の利益を獨占して居る樣に言囃す、之れ何を根據として言ふのであるか、尤も往年マッキンレー時代に於て日米提携して清國の保全を唱へしとき滿洲富源の開發は日本人の人間と米國の資本とを組合せて遣るが一番良いと云ふ說があつた、日露戰爭後シッフやハリマンが遣つて來てどうやら日人米資の結合も出來さうにあつたが、何う云ふ譯か夫れが遂に實施せずに了つた、之は甚だ遺憾の事だ、で今後は日米關係をマッキンレー時代に引戾して滿洲開發の事業を日人米資でやることにしたいものだ。世間では對韓問題など〻稱して韓國問題を滿洲と別にして論じて居るものもあるが夫れは大なる誤りではないかと思ふ、何となれば今日では滿洲と韓國とは彼の滿韓交換の時代とは違ひ舞臺と花道と云ふ格で一處に取扱はねばならぬものと思ふ、今日で云ふと韓國問題は大切である、併し滿洲問題は尙一層大切である、之を以て見ると滿韓の經營は是非共合せて遣らなければならぬと思ふ。

東京電報

▲宮內次官の任命 宮內次官左の如く任命されたり(五日夜)

樞密院書記官長正五位勳四等 河村金五郎

任宮內次官(敍勅任官一等)

▲韓鐵幹部の交迭 鐵道院は韓國鐵道管理局幹部の交迭を斷行する事に決し一兩日中發表の筈なり其の結果營業課長岡正矣氏休職となり鐵道院運輸部船舶課長黍畢三本武重氏後任に內定せり(同上)

▲濤貝勒午餐會 載濤貝勒殿下には本日貴衆兩院、大倉圖書館を巡覽せられ正午支那公使館に留別午餐會を開かれたるが非常の盛會なりき(同上)

▲市政博覽會の開設 明年米國市俄古に於て万國市政博覽會を開設するに付き我國へも參同を求め來りたるを以て目下全國各市に於て協議中なり(五日)

▲大島都督の出發 關東都督大島大將は本日新橋出發歸任の途に就きたるが八日神戶發嘉義丸に搭乘大連へ向ふ筈(同上)

▲ペスト全く終息 大阪市のペストは非常の猖獗を極めたるが當局者の防疫好良なりし爲め全く閉息せり(同上)

▲實業團の清國漫遊 我實業家の清國漫遊は南清博覽會の開設期延期に伴ひ來る七月下旬出發のことに決定したるが東京、大阪、京都、名古屋、神戶、橫濱の各市より人選中也

▲陸海將官の異動 陸海軍將官豫後備役編入左の通仰出さる

豫備陸軍中將男爵 冲原光孚
同 少將 楢原透
後備役被仰付 後備陸軍中將 波多野毅一
退役被仰付 海軍少將 長井群吉
豫備役被仰付 海軍造兵總監 李家政太

右と同時に佐尉官同相當官多數後備又は退役となりたり(同上)

▲高等商業豫科廢止 文部省は東京及び神戶の高等商業學校の豫科を廢止し修業年限を三ケ年に短縮するの議あり右は各地同種學校との權衡を實業家側の輿論に鑑みしものなり(同上)

▲東宮殿下岐阜行啓 皇太子殿下には明七日より岐阜縣下に施行する陸軍參謀旅行演習御見學の爲め行啓あらせられ御歸途名古屋共進會を御覽あらせらるべし(六日)

▲愈々日露同盟乎 日露新協約に就ては屢風說されたるが先月下旬歸任したる本野駐露大使が露都歸着の上愈々成案となるべく其の發表期は伏見宮殿下が日英博覽會御臺臨後大浦農相及び高平大使を從へ佛獨兩國に立寄らせられず六月末直ちに露都を訪問せらるべき豫定より察すれば必らず其の發表は其以前にあるべく高平大使が特に殿下一行に加はりたるも之れが爲めなるべしと(六日)

▲日本法規の適用 統監府裁判所は四十三年法律第四十號に依り裁判を爲す韓人に對しては日本法規を適用する旨本日勅令を以て公布せられたり(同上)

▲清國貴賓の退京 濤貝勒殿下本日御退京開院宮殿下を初めとし見送り人頗る多く殿下は橫濱より御乘船米國に向はせらる帝國軍艦筑波及高千穗は港外迄見送れり

▲首相の名古屋行 明七日名古屋に於て開催の手形交換聯合大會列席の爲め桂首相は松尾日銀總裁と共に今六日午後出發名古屋に赴く(同上)

▲安奉と架橋工事 鴨綠江は漸く解氷し始め安奉線工事は大工事を開始するや同時に鴨綠江架橋工事に着手せんとしたるに清國政府より故障を申込み來りしより爾來小池總領事と錫總督との間に交涉中なりしが此程漸く解決に近づきたるを以て近々架橋工事に着手すべし(同)

▲故岩倉公の葬儀 故岩倉公爵の葬儀は本日午後十二時三十分官邸出棺兩陛下勅使各宮殿下の御代理を始め元老各大臣樞密顧問官宮內省及各省高等官韓廷の御使韓太子御代理列國使臣民間知名の紳士名譽職等二千餘名會葬も特に賜はりたる儀仗兵二箇大隊前後に配せられ海晏寺に向ふ花畳の兎角寂しきを感ぜる裡に最と壯嚴に執行せられたり

▲秋月大使の拜謁 墺國駐剳特命全權大使秋月左都夫氏は近日出發に付本日拜謁仰せ付られたり

▲國分參與官歸京 國分參與官は片瀨に病統監を訪ひ直ちに上京七日歸韓の途に就く(同上)

大連電報

▲清國人の觀光團 奉天官民日本觀光團は八日奉天發十日天草丸にて大連發の豫定にて主催者盛京時報の中島社長は三日開城丸にて渡日せり(同上)

紐育電報

▲自由掠奪の法案 合衆國のルランド州立法部は國民の自由を掠奪する法案を通過せり之れ南北戰爭の結果行はれたる修正憲法の條項に抵觸せるものなれば最高法院は違法宣言を爲す事明瞭なり(五日)

歐洲電報

▲獨宰相と伊外相 獨逸宰相は伊太利新任外相とフローレンスにて會合し三國同盟に關する兩國の政策其他羅馬に於て試みたる談話會に付全然同意を得たり宰相は四月四日獨乙皇帝に奏上すべし(五日)

雜報

夥多しき燒酎の密輸入

西韓地方住民は氣候の關係上强烈なる酒類を好み婦女小兒に到るまで之を飲用するの風あるが之が爲めに同地方に於ける燒酎需用の年額は實に驚くべきものあり今當局の調査によるに鴨綠江に沿へる地方則ち平安北道厚昌慈城江界渭原楚山碧潼昌城朔州義州龍川鐵山宣川郭城の二府十一郡は最も消費地の主なる處にして其人口四十三万三千五百二十五人の現在なるが假りに一人の平均消費額五升とせば二萬一千六百七十六石の多量となり一石の平均價格三十圓に見積れば年額六十五万二百八十余圓の巨額に達すべし然るに光武九年以前に在つては此燒酎の輸入販賣は韓國人の營業に屬せしが對岸の清商等は其利益の多大なるを見て盛んに競爭を挑み僅かに三四箇年にして全部得意先を奪取せり今對岸清國に於ける釀造所を見るに安東縣十二戶寬甸縣十六戶懷仁縣十五戶輯安縣八戶通化縣十三戶臨江縣六戶合計七十二戶ありて一箇年の釀造高は正さに六萬四千八百石と稱せらる而して安東縣市場に於ける日々の取引高に徵するに其三分の二は韓國に對して輸出せらるゝに税關を通過するものは毎月二十石乃至二十五石を算するに過ぎず其他は税關監視の不備に乘じて隨意國境に密輸入せられつゝあるなり則ち貧弱なる西韓地方民は嗜好の燒酎の爲めに年々六十萬圓若くは八十萬圓の巨額を清商に奪ひ去られ加之密輸入の爲めに國庫は尠からぬ利益を侵害せられつゝあるを見るべし斯かる現象は畢竟韓人に企業心なきに基因するものなりと雖も亦一には金融機關の設備なく更に又當局の保護獎勵を閑却せる爲めなりと云へり

●京城局爲替受拂高 去る三月中に於ける京城局爲替貯金受拂口數金額は左の如し

種別	口數	金額
受入		
郵便爲替振出高	三、九六八	二六三、三一三、五〇〇
外國爲替振出高	三七	二、〇二〇、一八〇
郵便取立金受入高	七七三	一〇、五三八、七八五
郵便貯金預入高	二、四六一	九、三七五、九八六
振替貯金預入高	四三〇	一二四、五七一、二九〇
切手貯金預入高	一六四	二七、一〇〇
證券貯金預入高	一九	二〇、六八五
拂出		
郵便爲替拂渡高	三、八〇一	八〇、五一四、八一五
外國爲替拂渡高	二八	一、一七五、三九〇
郵便取立金同	九八一	六、七三四、〇三五
郵便貯金同	六〇〇	二〇、八九一、八四五
振替貯金同	一〇八	五一、八七五、七六〇

●東洋協會學校卒業 東洋協會學校京城分校は來る十日卒業證書授與式を擧行する筈なるが今期卒業生は左記三十名にて成績良好なりと

成績順 △印は優等生

△木村遞二、△金子幸吉、大野和助、河村利舍、巢山了海、內田榮吉、德江宣隆、山本忠、森忠之助、寺本豐治、鈴木昭三郎、酒井敬雄、吉田秀英、田代武、河野干畝、小野修徹、畑子之助、木藤壽平、小野澤竹四郎、平尾猛、伊東船政、久保田健三郎、三田戊子、岡今次郎、石原職行、矢野棟一、平三右衛門、山田乙市、鐘淵藤助、佐藤秀助

●京城局昨年度貯金 四十二年度中に於ける京城局爲替貯金受拂金額は左の如しと

種別	金額
受入	
郵便爲替振出高	三、〇七五、六〇四、四二〇
外國爲替同	一七、五七三、〇〇〇
郵便取立金受入高	一三六、八四四、八九六
郵便貯金預入高	一二八、五五七、〇二五
振替貯金受入高	一、九六〇、二六三、九四八
切手貯金預入高	二五七、七〇〇
證券貯金同	六三三、四五三
拂出	
郵便爲替拂渡高	九五三、〇七一、九四〇
外國爲替拂渡高	一八、六七三、五七〇
郵便取立金拂渡高	八〇三、三二四、五一七
郵便貯金拂渡高	一〇八、九九三、七三三
振替貯金拂渡高	一三四、九九二、四九〇

●私學校救濟と學部 湖學會等五學會より學部に對し私立學校救濟の件に付陳情し俵次官より詳細なる指示を與へしことは既報せしが同件に付五日更に五學會代表者學部に出頭し俵次官の指示を受けたりと

●長官の昌德宮參內 統監府石塚長官は六日午前昌德宮に參內し宮中に於ける諸建物を巡視せり

韓國現在の商業

韓國現在の商業は頗る微々たる有樣にして日本人の多數集團する四五の都會を除けば常設の店舖なく今猶物々交換の遺習を存し取引は市場に於て之を行ふを例とし市日以外の日に在りては僅少の日用品すら購買するに由なし而して市場は其數全國を通じ大小八百餘を算へ毎月六回開市し市日には常時附近市場を往來する行商人ありて不斷設けられたる小屋に商品を列べ又は露店を開き生牛米穀等の如きものは區劃を設け一定の場所に集合するの常習にして來市者は自ら附近數里の村落に限らるゝも大市場に在りては十數里の遠きより來集す其の人員は五六十人を出ざる者もあれば七八千乃至一萬を超ゆるものなきにあらざれど概して普通七八百人乃至千四五百人とし盛歲暮の季節には各之に二倍す此時來集者は多少に拘らず自巳の生產したるものを持參し之を販賣し其の得たる金錢にて日常に要する物品を購買するを例とするが故に市日に於ける市場の雜踏頗る混亂を極め喧噪の狀更に名狀すべからざる有樣なり尙商習慣は種々あるのみならず地方に依り多少異なる所ありと雖就中重要にして且つ國內共通の商習慣とも見るべきものは客主、居間、監考の三者之なり即ち客主は委託を受けて取引をなし又は手形の發行、引受、割引及び預金貸付け貨幣の交換並に旅客を宿泊せしむるものにして稍日本に於ける問屋業に似たり居間は賣買當事者の中間に介在し諸般の周旋をなし一定の口錢を受ること恰も日本人の仲買人に相當す監考は市場に於て米穀を升量するものにして市場取引の米穀は必ず監考之を升量し其の報酬として一升に充ざる端數を收獲するの業体なるが要するに今日の不振は當局者の施政に從つて近き將來に於て刷新せらるゝに至らん

●米國總領事の出發 京城駐在の米國總領事シドモー氏は一昨五日下仁橋本副理事官を訪ひて告別の辭を述べ明八日仁川港出帆の山東丸にて神戶に直航し同地に數日間滯在の上便船を待ちて歸國する筈なるが三四箇月後には再び歸任すべしとなり

●鴻山郡の林業獎勵 忠淸南道鴻山郡衙にては本年度より地方費を以て郡內面北村里に三十斗落の田地を購入し苗圃を作り果樹及び樹木を培養し而して林業の發達を圖る爲め學校又は各面に之を無代配布する由

●仁川壯丁の好成績 仁川に於ける本年度徵兵適齡者は百二十九名なりしが受檢の結果九十一名合格したる由にて他の居留地に比し花柳病者等少なく至極好成績なりしと云ふ

●商業夜學入學手續 仁川民團立商業學校は新組織に依り來々昨日より授業を開始せしが一學年に入學志望の者は來る十日迄の內履歷書を添へて同校に申込まるべしとなり

●海老名渡瀨兩牧師 海老名渡瀨兩牧師は七日平壤より歸京し若草町井出氏邸に宿泊八日より連夜各演說會に臨むべしと

●ル氏令孃等の入京 目下北京に滯在中なるルーズベルト氏の女婿は同夫人及び令息同伴來る九日頃安東縣を經て入京の筈なりと云ふ

●宇佐川總裁の歸京 東上中なりし東洋拓殖會社總裁男爵宇佐川中將は去る五日夜歸京せられたり

●米國貴夫人の來城 米國聯合通信社のストーン氏夫人は來る九日頃入京する筈なりと云ふ

●兵須久氏送別會 仁川官民の催に係る兵須百三十銀行支店長送別會は六日午後八時より仁川ホテルに開催せしが參會者百數十名にて頗る盛會なりき

公人私人

▲安藤靜(法典調查局事務官)五日仁川より入京し三日月旅館に投宿せり

▲森肇(代議士辯護士)一昨五日釜山より入京し三日月旅館に投宿したり

▲鈴木小太郎[illegible]

[illegible]

▲治外法權

[illegible]

名妓洗髪のれ妻(二)

▽養母は眞實の賢夫人
▽叔父は所天の上役人

語は元へ戻りますが、舅の小田歓中は只今目黒邊に閑居してゐるとの事、養親ですから一度遇ひたくは思ひますが今の身分では何うする事もなりません此男以上に可愛つて下さつたのは養母の政といふ人で、私が今、及ばずながら何んな高貴なれ方の御座敷へ上がりましても失錯せず、又七六かしい家庭へ上つてもれ腹が確かだといふのも實に此養母の仕込みが身の役に立つといふ譯で御座います、男は年には若い美男子で、養母の方は縹緻てそ二の町、薄菊石面の人でしたが賢夫人といふのは彼の人のやうなのかと今でも思はれますよ、女の藝といふ藝、茶の湯生花は申すに及ばず、糸竹の道にも明かで時に常磐津の方では小菊太夫といふ名前まで持つてゐる位でした確か本阿彌の娘だといふ事、此養母に義雄が放蕩で〳〵先の見込みが無いといふ事になつた時でも夫婦養子の私ばかりを残して置かうとまでした位可愛つて呉れましたよ▲夫れから面白かつたのは義雄と私とは年が馬鹿に違ふのでせう其上小供の時から一處にゐたものですから只兄さん〳〵で暮してゐると、義雄が當時の御友達は馬場元次さん、小田切さん、細野次郎さんなどで、常も〳〵遊びにゐらしつてるので、或る時細野さんが義雄に君の妹のれつまさんを、是非俺の女房に呉れと眞面目に申込れたには義雄も大に閉口實は是れ〳〵と頭を抱ねて話してゐた事がありました義雄が廿一年に群馬縣の學校へ出る事になり、其後文部省へ出てましたが此頃私の叔父の河村重方が矢張文部省に出てゐて少壯の義雄を叔父の手許で使つてゐたのですが此叔父の河村は私が對州から直ぐ小田の家へ夫婦養子に貰はれた事は知らず義雄も役所で机を並べてゐる上役の河村が私の叔父だとは夢にも知らなかつた、其時私等は本郷の弓町にゐました處が或日の夕方、私は女中を連れて散歩に出て小石川砲兵工廠の前まで來ると本郷の方から抱車を飛ばして來る人がある近づくにつれ見るともなく見ると河村の叔父さんでせう、小供の時から對州の邸で可愛がられたので、ツイ思はず叔父さん〳〵と呼んだものです、叔父さんは車から飛んで下りて、れつま何うしたといふ譯なの、是れ〳〵といふと喫驚して其れならば役所の小田の女房になつてゐるのかマア〳〵小田ならば立派なものだといふので知らさなかつた不平は忘れたやう喜んでくれまして、一度家へ來いといふ事で義雄も意外だとて、叔父さんが本郷の西片町に住つてゐましたのを夫婦連れで訪ねました處、叔母さんのちか子さんも大層喜んで呉れまして、夫れなら家の裏に空地があるから、新築して夫れにれ前達夫婦を住はしてやらうとの事になりました、此時分こそ私も今のやうなれつまちやない、全くのどこれ嬢さんで、自分の心も春の海のやう長閑のものでしたが縺れの初めでした

色魔寄下清助

▽品物を見ると一寸借せ
▽借りた物は賭博の資本

仁川仲町尾崎旅館の客引たりし廣島縣高田郡志屋村生れの寄下清助(三二)と云ふは飯よりも女と賭博が何よりの好物にて其筋の注意人物なると共に曾つては日進樓に八年勤續娼妓十郎と乳繰合ひの浮名を流したる男にて流石は商賣柄の客を曳くの上手なるは固より女を騙す事の巧妙なるは驚くばかりにて○旅館の現主婦及び其他にも渠れ色魔の爲めに可惜松の操を穢されし女の數多き由にて評判兎角善からず殊に賭場に毎日の如く出入して賭博に耽るものから仁川署刑事は密かに精探する處ありたるに數日前仲町富永人力車帳場に於て同人所有の懐中時計を無斷拜借の儘之れを入質したるを手初めに花町一丁目村上洗濯屋にては衣類二點を鳥渡借して呉れと持出でし儘之れも入質し其他數箇所にて前同樣の手段により捲き上げし品物の質札六枚を今度は宮町二丁目の神田利吉と云へる者に七圓にて捨賣し何れ共なく姿を隱し居りたるを去る四日發見本署に引致して取調べの上昨日檢事局に送りたるが茲に憐れを止めしは花町二丁目なる阪本と云へる親子三人にて餅を賣り歩きながら辛くも其日〳〵を過ごしつゝある者より甘き口調にて現金五圓其他の物品を借り受けながら其金子は全部賭博及び女買ひに費消し居たるものなりとは人間の風上にも置けぬ代者と云ふべし

ヨボの強姦未遂

▽加かも友人の女房

京畿道長端郡高浪浦中里舟乘業金根淳(三三)といふ無法者は去月二十二日夜兼て知合ひの同業者漣川郡下南面倉洞黄仁類を訪れしに黄は不在にて妻一人炊事の支度中なりしかば忽ち自然主義と出掛け色々口說立て出齒り掛しも頑として應せざるにぞ果ては腕力に訴へ強て怪しからぬ所業に及びアハヤ女の命なる貞操を蹂躙されんとする折から黄の兄にて近傍の麻田郡に住ふ黄根竹が所用ありて來合せたれば金は意を果す能はず其儘逃歸り危き難を免かれしが後にて斯を聞知りたる黄は大に憤り金を引從へて麻田分遣所に同行し訴出たるが取調べに對して金は酩酊の余一切知らずと闇々しくも飽迄で事實を申立ざる由



女振り

龍山八つ藤女將 藤田よし女

凡そ現世に女といふもの程わからぬものはない、いひ度いことを控へ爲たいことも怺へるばかりならば且可、いつたことも爲たことも白を切る、之れが女の常だといへば分らぬのはれよし女將である、生れは廣島の歷とした家に生れ、妙齡にして歷とした家の奥さんとなつて云ひ度いことも控へ爲たいことも怺へ通した數年の後、不縁となつてからは持つて生れた俠が頭を擡げて、韓國へ渡つたのが抑も爲たいことの爲始め、一度開城で立派な家の奥庭に移されたが樣子あつて泣いて別れもう〳〵男は懲りましたと龍山八景園で仲居勤め、此日からが云ひ度いことの言ひ始め、面と向へば五尺の男も嚙むで吐き出すかはりに、之れはと思へば三才兒にも兩手を下げる覺りものと持て囃されたが、其後老松町に待合を開業して今は女將、れかみさん、姐さん、れかはん、れよしさんと確か六つか七つの名を持つて居ますと笑つて居る、無論可いと思へば何でもいふ、何でも爲る、デ那麽で居て情夫が無い筈は無いと他人が氣を揉む、そうか知らと突つて居る、好きも道樂も可愛い弟と弟嫁の出世を祈る外には無いといふ。

●同業者の面汚し 無鐵砲な事を書いて同業者の笑ひ者となつて居た大邱新聞社員古賀省二は曩きに同社が藝妓酌婦の美人投票を募集したる際同地料理店千芳樓主相原せん同樓酌婦房子の情夫農工銀行員生山隆太等に對し一等投票點數として新聞紙に發表せんことを内約し金二十圓を詐取し又農工銀行書記西村基助が姦通を爲したりとの投書を示して暗々に恐喝して金五圓を騙取したる爲め過般大邱監獄署に拘禁せられたり

●暴徒全く根絶 江原道江陵郡に於ては昨年暴徒の出沒盛なる頃憲兵警察官は極力捜索に盡したるも土民は後難を虞れて犯人を知りながら報告せざる者ありて官憲も一方ならず苦心したる結果各洞に夜警を置くことゝし本年一月各面長を郡衙に召集して自衛的夜警番設置の議を諮りたるに一同賛成して直ちに之を實行しつゝある所其後暴徒は勿論鼠賊も跡を絶ちて頗る平穩なりと云ふ

●韓人の官名詐稱 仁川平洞居住の林淳億(三二)と云ふは官名を詐稱して附近の村落を喰ひ荒す惡漢なるが一昨日も龍洞に於て飴行商八番石浩(二四)より飴五本を二錢五厘にて買求めながら代金を支拂はず此名刺を所持して憲兵隊に來らば何時にても拂渡さんと言ひながら足早に行過ぎんとするを押へ揉つた揉んだの騷ぎの中に警官出張同人を本署に引致取調中なり

●又々仁川の失火 仁川宮町三丁目飲食店いろは亭事室かつ方臺手二階より一昨日午後十時半頃發火しすんでの事に一大事に及ばんとせしも宵の事とて近所の人等馳せ附け漸く消止むるを得たりしが原因は煙草の吹殻を捨てたるより古蒲團に燃へ移りたるものにして損害は僅に疊二枚を黑焦にしたるのみなりしと

●場市暴動の公判 拘禁中なりし場市暴動主謀者に對する公判は五日新義州地方裁判所支所に於て開廷檢事の論告あり來る九日判決の筈

●朝顏種子の配布 長野縣下高井郡延德村涼山館草園では多年間朝顏培養に熱心なる事世人の知らるゝ處なるが昨年の結果百廿七種類に達す中に優美八重咲、獅子咲、車咲、臺咲、桔梗咲○○○○大輪咲を始め珍花變葉の良種混合一袋を今回愛花諸君に配布なす由希望者は實費送料共として郵券廿一錢を添申込めば直に郵送すと尚希望申込者には石竹多種類混合一袋を添へ無代進呈

●諸國盆踊唱歌評(八)

▽昔流行の唱歌でムる
▽花も實もある優しさ

河内の部

『わきもあかれもせぬ中なれど いとまやります親ゆゑに』

藤『哀れ深き歌ではある秀逸〳〵』異識『今の娘や息子はありやせんね 墨口『ほんまなら親にいとまを遣る所だね 李『同感だアよ 敬『オヤ李さんがハイカラになつて漢罫を遣ふよ 頭取『東西

『山家〳〵とあしげにいやる 色のよいはな山にさく』

蚊士『中國でも此の歌は唄ひますが山家〳〵とあしげにいゝかと唄ひます、併か私は此の方が宜いと思ひます、いやるとし其の土地の方言でいふをいやると云ふのであらうから河内の郡では彼れに從ふのが至當でしような 李『御尤もでがあす 一同『秀逸〳〵』

橫濱生れ太田ゆきといへば女に相違なく當年取つて二十一といへば女の色盛り背が高うて色が白うて金縁眼鏡をかけてシャナリと立つた姿を先づ想像して御覽じろ好からうか惡からうかは早や御承知の方もあらん去年新町は鯨一樓より一寸現はれて直ぐに消ね失せた女が復た昨日より還へり新參今度の源氏名は翠と申す齣但オット前名は狐とでも狸とでも勝手に思ひ玉へ其處はいはぬが花を持たせた心▲花月の老妓れ辰は愈々六日朝南大門驛に一聲の滊笛に惜しくもない別れを告げ日本を指して左樣なら、見送り人は同樓藝妓、仲居は勿論其外色々な階級のれ客筋が多數にヨツながら見送つて居た、然るに同じ中劵で居りながら花月を除くの外他樓の妓共は殆んど見へぬ中劵と云ふ組合の名は立派でも内間では矢張り商賣敵きだから仕方がないと見へる▲濟華亭の法螺藝妓梅子は近來大分法螺を吹き當てたと見へ前月の賣上順は中劵で第二番であつたコンナ事は勝の緒切つて初めてゝあらふ永續きがすれば宜いがと氣遣つて居る人がある

目と耳

▲京城座 同座七日替り狂言は『是れ何人』にして重なる配役左の如し

紳士山本(今井)車夫吉(花井)車夫仙吉(千葉)朝口屋傳豐(川崎)乳母れよし(金澤)因果の高瀬、忠僕佐平(桂木)村井芳夫(田中)山根老公(高山)畫工竹庵、檢事渡邊昇(高島)紳士花井(宇津川)巡査山本角力取子分(潮)辯護士春木政義(浮田)番頭忠七角力取うるし山(眞鍋)大野庄兵衛(秋岡)渡邊すみ子(三好)大地義一(瀬川)

平民文庫

●佛祖降誕會 明八日は世尊降誕日なるが在城各宗寺院聯合して南山東本願寺に於て當日午後七時半より盛大なる式典執行せらるべしと云へば善男善女奮つて參拜せらるべし▲明治町の淨土宗開教院にては七日は宗祖圓光大師の降誕日明八日は釋祖の降誕日に付例年の通り兩日とも午後二時より法會を執行し法話說教ありと

▲四月二日發行の木浦新聞三面に『當水道自家用栓引用希望者は當役所に就き手續承合の上至急申込むべし追て工事は申込順に依り施行す明治四十三年四月一日木浦居留民團役所』と云ふ公告が出て居たが文辭の不穩當なることは前世紀の官署の公告文を見る樣だ此れは一つは民團役所なる名も累を成すのだ民團事務所と改稱すれば吏員の心が乾度和いて此の如な愚は繰返されまいと云つても田舍の人には判るまい(紅)

▲南大門通りの某表具師の宅の者で三人組の飲食店荒しがある此奴寵夜の何時でも閙はず大聲上げて騷ぎ回るので良民の迷惑する者尠なからぬ其の筋の取締りを希望する(一良民)▲西小門通り邊の淫賣屋に巡査部長の制服を着けて上り框に腰を下して茶や菓子を飲んだり食つたりして居る人がある世夫本物の巡査部長さんぢやあるまい(通行人)▲何うだか知らん(小僧)▲昨日の南大門驛は各一等料理店の藝妓連で埋められた樣だつた驛員連はロハで眼の正月が出來たと大喜び(見送人)▲鳥有なれ高い處のない謙德に富まれた方居通譯官の奥さんは高等官の夫人に通ですとは一般出入商人の評判でありますが私は現に去る日御勘定を頂戴に出ました節れ宅の飼犬が嬉しがつて飛附きて袖と云はず胸と云はず泥を附けました元來畜類の如かも馴れ〳〵しさの餘りした事ですから心持ちの惡るからう筈はない然るに奥さんは此れを認めて非常に氣の毒がられ人手を借りず御自身で濟みません〳〵を繰り返して叮嚀に拂ひ落して下された或は當然の事かも知れぬが併し私は非常に美しい感に打たれました十指の指す所夫れ嚴なるかなとは事實ですね(集金掛)▲近頃美しいれ話しを承ります、當然爲すべき事を爲すのが美しいのです、序を以て投書家諸君にれ願ひしますのは他人の惡事を指摘して改悛遷善に資するも一手段だが他人の美事を發表して風敎に稗補するのも又適好の一手段であると信じますから此の方面の投書を歡迎致します(係)▲本町の蒲鉾屋の娘さんが美くしいと云ふので大分覗いを附けてる人があるが氣の毒なことだが

今日の運勢

四月七日 舊二月廿七日 六白●佛滅 三りんぼ 壬寅 閉△一白●業務上快心の事あり子孫の計を作り殖林農業には大に吉△二黑●平靜の日なり婚姻養子の事談吉命名披露舟下し入學門凶△三碧●泡沫に歸し易し新事見合せの事金品授受貸借賣買間違多し△四綠●不快の日なり盗害横領を防ぐ新事見合すべし△五黃●職務上疎漏過誤を來す勿れ色情痴情を戒しむ△六白●人より疑容を受くるあらん尚委任受任保證の關係を作る勿れ△七赤●中傷妄に罹り易し且つ爭論紛擾起り易し△八白●慎懲失錯ある日とす尚他人と計算上に紛糾あらんとす△九紫●人の爲め勞苦煩累を增す日とす保證引受忌むべし慨して不穩たり(三一舘判斷)

美術半襟帯締其他紐類各種
京城明治町一丁目 電話一千四百〇九
ゑり徳商店

値上廣告

韓語大成

一部一圓八十錢

從來一部一圓五十錢の處今回紙數百余頁を加へ改正增補致候間前記の通り値上候也

京城本町五丁目
釘本藤次郎本店
長電話四五番
振替貯金口座韓國二五六番

明治廿年七月創立●

東京火災運送海上保險株式會社

資本金一千萬圓●

京城代辨店 本町四 山口呉服店 電話九番
事務所 京城南大門通二 電話一〇六〇番

官衙御用品調達

營業科目

和洋紙類
印刷附屬品
印刷インキ
和洋書籍
防腐デシン
穀物食鹽
諸染料類

委託販賣

東京ランバーゾ商會代理店
東京中外アスフアルト株式會社代理店
東京千代田生命保險相互會社代理店
東京博文館發行書籍特約店
東京金港堂發行書籍特約
釜山韓國鹽合資會社食鹽特約

藤田合名會社

本社 京城明治町二丁目(電話二三〇番)
出張所 東京京橋南鍋町一丁目 京城新地電話十番 二九六三

きゝめのある温泉湯

此の温泉は左の如き病に最も妙なり
一かつけ、痔疾、リウマチス、腰痛、中風、ひぜん、梅毒、りんびよう、こしけ、子宮病、血の道、神經痛、やけど、マラリヤ、せん氣、腸胃加答兒、凍傷、がんがさ、其他内用には鐵冷温泉を用すれば尤も効能あり

貸席
京城本町二丁目郵便局前
鐵冷温泉
電話千四百十一番

紙と印刷

諸紙
和洋帳簿
印刷
各種製本

諸官衙御用
播本(ハリモト)商店
京城本町六丁目
電話百拾番

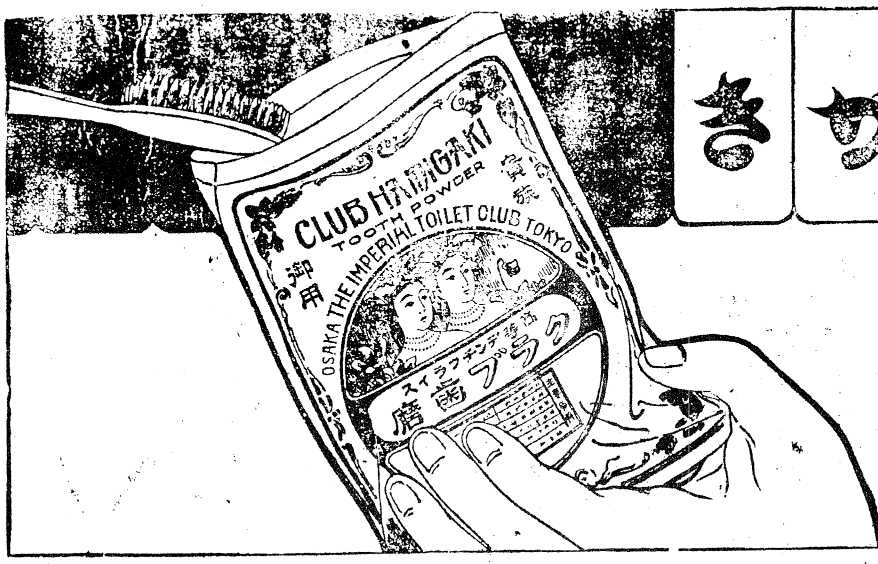
名物しる道樂

鯛 松たけめし 一人前三十錢
あなご 竹の子めし たなしく
鷄 ゑんどうめし たなじく

兼てなじみの大阪美人、御光來の程を待ちかねて居りますから、御賞味を賜はりたう、尚は多少によらず出前も仕ります、呉々も御用命伏して御願申上げます

大和町三丁目
梅の家眞向ひ
電話七三五番
明月

クラブはみがき
高等デンチフライス



本品は
帝國化粧品倶樂部の新製品にして
クラブ洗粉の姉妹品なり

特約販賣
味噌醬油製造元
漬物問屋
京城本町五丁目

大上商店

(電話二五一番)

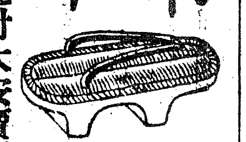
自製和洋酒、◯精酢、穀物麵類銘茶、鑵詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、鰹節、壜辛、日本食鹽各種特約販賣
尚御望に依り商品切手調進仕候

京城明治町二丁目(佛國教會前)

辯護士
特許辯理士
岩田仙宗

電話三五四番

東京足袋



正札付大安賣厘毛引なし安心して買へ升

本店東京
京城大和町一丁目(日の出橋際)
大和屋
藤井出張店
電話二百〇五番
明治町勸商場内ニモ出張店アリ

資本金 一千萬圓
積立金 五百四十萬圓

株式會社 第一銀行京城支店

電話一一番 六一一番

銀行一般の業務は確實を旨とし精々御便利に取扱申候

本店 東京市日本橋區兜町
支店及出張所 大坂、京都、横濱、神戸、名古屋、四日市、下關、新大坂町(東京)、兵庫、伏見、西區(大阪)、釜山、
其他日本韓國各地並に海外樞要の場所に爲替取引先有之候

京城相生町(南門通横)

神戶貸生分院

◎花柳病專門並、痔(注射療法)

京城梅毒病院

(電話一二九四)

●入院隨意●

院長 醫學得業士 廣田辨平

開業御披露

今般左記の處に開業致し粹樣方の御來車を待申候

京城本町八丁目横入初音町
待合貸席
松廼家
電話千三百九番

京城南山町(元日本人俱樂部)

京城ホテル

長電話 一二三番
電話 四九二番



京城光化門通
淺田洋服店
店主 大島鼻藏
(電話四百十二番)

胃腸消化新劑

澱粉消化 ヂヤスタリン
錠劑十日分(三十粒入一瓶)二十錢
散劑一オンス入(一瓶)一圓二十錢
蛋白脂消化劑 ヂゲスチン
錠劑十日分(三十瓶入一瓶)三十錢
散劑一オンス入(一瓶)二圓四十錢

右は最近内地に於て急激の需用を來たしたる名聲嘖々たる世界無比の理想的絶品にして所謂賣藥には無之候
各地有名なる藥店に於て販賣す

●大韓醫院御用藥

韓國一手賣捌元
京城光化門通
大島專藏

生徒募集

和洋裁縫、造花、盆石、茶の湯、生花、御料理、即席及普通教授

右親切叮嚀を旨とし敎授致候御出相成候方は出敎授仕候
寄宿舍の設備も有之又造花材料も備置申候

龍山老松町六十七番戶龍山橋通取次電話一一九番

佐藤セキ
五島チカ

蒸汽消毒牛乳

京城大和町一丁目
平山牧場
電話三三一

春着用本場秩父縞
新柄各種着荷

京城明治町一丁目

秩父屋
關根出張店
(電話四三番)

移轉廣告

今般擴張の爲左の處に移轉尚一層大勉強致候間多少に不拘御用仰付被下度願上候

龍山榮町元井筒跡
履物商
遠山商店

齒科治療

本町六丁目
ドクトル 中村安子
(鰻そば横町)電話一五八三番